

おとうさんとのゆめ

坂元 晴飛さかもと はると

ぼくが、かぞくのなかでいちばんすきなのは、おとうさんです。ぼくのおとうさんは、ごはんやさんではたらいています。みんながごはんをたべるじかみや、おやすみのひは、いそがしそうにはたらいています。よるもおそくまではたらいでいて、かえってくるのはまいにちぼくがねたあとです。それでもおとうさんは、ぼくがしょうがつこうにいくじか人にはおきてきて、まんしょんのしたまでおくつてくれます。いつしよにいくおともだちはみんなおかあさんだけです。ぼくのおかあさんは、あさはやくおしごとに行くので、まいにちおとうさんです。

「いつてらっしゃい。きをつけて。」

と、やさしくいつてくれるおとうさんがだいすきです。

おとうさんのおやすみは、いつしゅうかんにいつかいだけです。にちようび、ぼくとおとうとのために、いろいろなところにつれていつてくれます。こうえんやぶーる、かがくかんやえいがかんなど、かぞくであそぶにちようびが、まいかいたのしいです。

にちようびのよるは、かぞくそろってごはんをたべられ

るのもうれいしです。おとうさんは、だいすきなびーるをのみます。こつぶをれいぞうこできんきんにひやして、ぼくがびーるのかんをぶしゅつとあけて、じょうずにあわがでるように入れてあげます。おかあさんもいつもより、りょうりをたくさんつくつてくれて、ごちそうがならびます。じいちゃんもしょうちゅうをいれて、

「かんばーい。」

かぞく5にん、みんなでたべられるにちようびのよるがとてもしあわせです。おとうさんがぼくのついでびーるをおいしそうにのんで、

「うまい。はるもこれたべてみて。」

と、ぼくのおさらによりょうりをとつてくれて、たくさんおはなしをしながらたべます。さいこうにおいしくて、たのしいよるです。おとうとが、

「きょうは、かんばいのひ?」

とにちようびをたのしみにするのは、ぼくもおなじです。

「おとう、いつもありがとう。おとなになったら、ほんものびーるでかんばいしよう。」